長崎県内海事資料館の現状調査と展望について

高山　久明[*1]，秋山　典子[*2]，清水　健一[*3]

Research on the Current Situation and Their Prospects of Maritime Museums in Nagasaki Prefecture

Hisaaki TAKAYAMA[*1], Noriko AKIYAMA[*2] and Ken-ichi SHIMIZU[*3]

Maritime museums are a type of institutions which hand down the maritime culture as well as materials and information, which were surrounding old-time fishery, to future generations. The maritime culture, including technique to make fishing tools or to master fish-catching methods, as well as the way of life for people in a fishing village had taken root throughout Japan.

Debilitation of fishing villages in Nagasaki is progressing by decrease in fishery population. This depopulation is caused by the difficulty to obtain successors in addition to the aging of population. Today many children in fishing villages are leaving their hometown and do not succeed to their family business of fishery in the present sophisticated economic society and the increase in education level. The transient study about maritime affairs does not work well to foster successors to fishery. In order for the boat fishery in Nagasaki and all over Japan to expand, it is significant to inform young people the charm of fishery and to enlighten them about the maritime culture. It is thought that maritime museums, which are recording and intelligibly exhibiting the history of fishery, the origin of fishing gears and fish-catching methods, and their transition, greatly serve as maritime educational institutions.

In order to serve a bridge between maritime museums and visitors, we conducted a research through interviews and questionnaires on the maritime museums in Nagasaki Prefecture as well as the utilization of museums by children. As a result of this research, we could reveal the particulars about museums' efforts, frequency of children's visit, and their awareness of maritime museums. In order to utilize the result of our research for mutual information exchange of maritime museums and for users' study or visits, we created the maritime museum guidebook of Nagasaki University version. We introduce a part of this guidebook as an introduction of the result of our research and a prospect based on the result.

Key Words：海事資料館 Maritime Museums, 海事教育 Maritime Education,
海事文化 Maritime Culture, 資料館ガイドブック Museum Guidebook

かつて日本各地で用いられていた手作りの漁業の道具，即ち，漁舟や漁具および伝統漁法は，近年，漁業の機械化・自動化の流れの中で遺物化され，その資料は散逸の傾向にある。これら古い時代の漁業を取巻く海事資料および漁具の製作や使用法などの技術，人々の暮し振りなど，かつて日本各地に根付いていた海事文化というべきものを後世に継承する施設の一つに海事資料館が挙げられる。長崎県は，古くから漁業が盛んであったことから，海事資料館が各地に残されている。また県内各漁村では，漁業後継者が得られず高齢化とともに漁業人口減少のため，漁村の弱体化が進んでいる。かつて漁村に暮らす子供たちは，浜辺での遊びを通して自然に海事文化を身につけ，また漁業を後継していく下地や社会体制があった。しかし現在の高度経済社会，高教育のもと，子供たちの漁村離れ，後継者離れが進み，現状では一時的な海事学習の機会が与えられても後継者育成には十分機能していない。しかし今後，長崎県，広くは日本の漁船漁業が発展するためには，若者にその魅力のアピールと，また更なる海事文化普及の啓蒙が必要である。古い時代からの漁業の歴史，漁具・漁

*1　長崎大学水産学部水産海事情報学研究室（Laboratory of Fishery, Fishing Boat & Good Seamanship information Sciences, Faculty of Fisheries, Nagasaki University）
*2　現岡山県庁勤務（Okayama Prefectural Government）
*3　長崎大学大学院生産科学研究科博士後期課程（Graduate School of Science and Technology, Nagasaki, University）

表 1　用語の定義
Definition of Term

名称	定義	例
博物館	一般的な”博物館” (”資料館”よりも所蔵資料が多いもの)	国立科学博物館
資料館	一般的な”資料館” (”博物館”よりも所蔵資料は少ないもの)	各地の郷土資料館
海事資料館(A)	船舶に関する海事資料を所蔵・展示する資料館	船の科学館
海事歴史資料館(B)	歴史資料館の中に海事資料を含む資料館	船の展示がある歴史資料館
海事民俗資料館(C)	地域民俗資料の中に海事資料を含む資料館	船の展示がある歴史民俗資料館

法の由来やその変遷などを記録し，また，分りやすく展示している海事資料館は，海事教育施設として大いに機能することが考えられる。

そこで，海事資料館と訪問利用者の機能的橋渡しを目的に，県内に現存する海事資料館および子供たちの海事資料館利用状況を訪問やアンケートを通して調査した。その結果，海事資料館側の取組や子供たちの利用頻度および海事資料館に対する意識を明らかにすることが出来た。これらの結果を紹介し，今後の展望として，海事資料館同士の情報交換および利用者の学習や訪問に役立て，海事文化普及に資するため，長崎大学版の海事資料館訪問ガイドを作成したのでその一部を紹介する。

資料及び方法

用語の定義　本報で扱う用語の定義は，表 1 に示す。すなわち，船舶に関する資料を展示している資料館を海事資料館とし，その海事資料の歴史的変遷を取り扱う資料館を海事歴史資料館，また人々の暮しに関わる民俗資料を主として展示している資料館を海事民俗資料館とした。

資料　海事資料館資料は長崎県内市町村のホームページなどを検索して収集した。その内容は，設置目的，設置年，休館日，開館時間，入場料についてと主な展示物などであり，併せて所在地を調べ，アンケート実施やガイドブック作成の際の参考とした。

アンケート調査　資料館について利用者側と資料館側双方の意見を比較するためにアンケート調査を実施した。まず，利用者側のアンケートは，長崎県を 4 つの区画に分け小中高校生を対象として実施した。これは学校行事などで資料館を訪問する機会が確保されており，確実に回答が得られることを期待したものである。学校へのアンケートは 2 回実施し，1 回目は海事資料館に限らず，資料館・博物館全体に対する意識調査を，2 回目はアンケート内容を海事資料館のみの意識調査を行った。一方，資料館側へのアンケートは所蔵資料の現状として種類と点数のほか訪問者数，展示方法などであり，将来の資料館像を描いているところにはそれが把握できるような質問とした。

資料館ガイドの作成[1)-2)]　資料館ガイド作成は，アンケートに回答があった資料館について行った。この資料館ガイドは前出のホームページの内容に示す基本的な資料館情報に加え

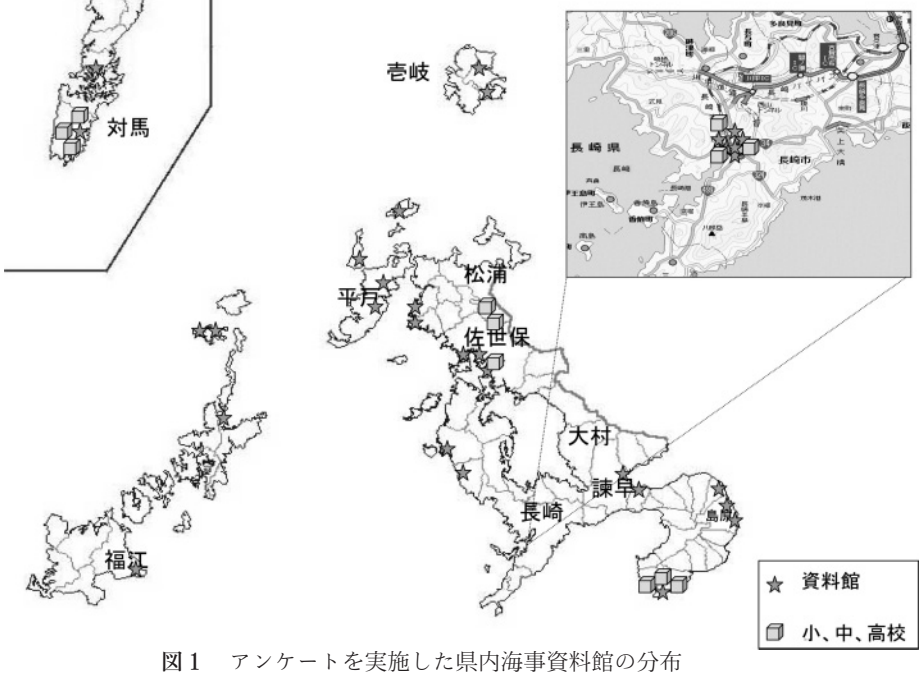
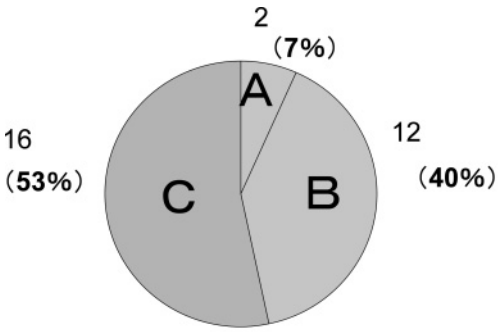


図 1　アンケートを実施した県内海事資料館の分布
Locations of Maritime Museums

表 2　アンケートを実施した県内海事資料館の分類
Classification of Maritime Museums Which Returned Questionnaire in Nagasaki Prefecture

	海事資料館(A)	海事歴史資料館(B)	海事民俗資料館(C)
長崎地区	三菱重工業株式会社 長崎造船所「資料館」	長崎市出島資料館 長崎市グラバー園 旧香港上海銀行長崎支店記念館 日本二十六聖人記念館 常磐歴史資料館	長崎市歴史民俗資料館 外海町立歴史民俗資料館 大瀬戸町歴史民俗資料館 諫早干拓資料館 森山町郷土資料館 有明町歴史民俗資料館 口之津町歴史民俗資料館 榊原郷土資料館
県北部地区	海上自衛隊佐世保資料館	西海パールシーリゾート 松浦史料博物館 平戸城	生月町博物館　島の館 小佐々町郷土資料館 大島村ふるさと歴史民俗資料館 鷹島町立歴史民俗資料館
五島地区		五島観光歴史資料館 新魚目町　海のふるさと館 小値賀　あわび館	小値賀町歴史民俗資料館
壱岐・対馬地区		原の辻遺跡資料館(壱岐)	対馬歴史民俗資料館(対馬) 豊玉町郷土館(対馬) 石田町ふるさと資料館(壱岐)



(A:海事資料館, B:海事歴史資料館, C:海事民俗資料館)

図 2　アンケートを実施した県内海事資料館の内訳
Ratio of Each Classification of Maritime Museums

て，実地訪問して気づいた点や，海事資料の紹介および資料館側が強調しているポイントを示すことである。また，利用者が訪問するに当たりその資料館をイメージしやすいように，訪問者数，展示品数，海に関する展示品数，再訪問者への工夫，子供が理解できるための工夫など計5項目のレーダーチャート作成も行ってみた。

結果及び考察

県内海事資料館の位置と分類

アンケートを実施した海事資料館の位置を図1にまた，これらの海事資料館を前述した定義によって分類した結果を4つの地区毎に表2に示した。さらに表2に示した資料館3種の内訳を図2に示した。表2や図2に示すように県内海事資料館の半数以上が海事民俗資料館であった。このような県内の海事資料館の分布，地理的条件を踏まえ，利用者側へのアンケートは表3に示す4つの地域で実施し，その内訳は，

①都市部，海沿い，大規模学校，周りに資料館が多い（南部）　西浦上小学校，西浦上中学校，長崎西高等学校

②郡部，山間部，小規模学校（例外：佐世保西高等学校），周りに資料館が少ない（北部）　吉井町立南小学校，世知原中学校，佐世保西高等学校

③郡部，海沿い，小規模学校，周りに博物館が多い（島原半島）　口之津第二小学校，口之津中学校，口加高等学校

④島，大規模学校，近くに有名な博物館あり（離島）　厳原小学校，厳原中学校，対馬高等学校

であり，それぞれの対象とした学年は，小学校5年生，中学校および高等学校は2年生である。

表 3　アンケート実施校の条件
Condition of Schools which Returned Questionnaire

地域区分	立地条件	地理的条件	学校の規模	資料館の多少
南部	都市部	海沿い	大	多
北部	郡部	山間部	小	少
島原	郡部	海沿い	小	多
対馬	島嶼	(海沿い)	大	多

表 4　資料館への平均訪問回数
Average Number of Visits to Museums

	南部地区	北部地区	島原地区	対馬地区
小学校	6.42	2.32	5.21	2.86
中学校	6.44	3.63	4.01	2.87
高等学校	5.32	2.43	3.70	2.27

学校へのアンケート結果

資料館への訪問回数　各学校生徒のその時点での資料館合計訪問回数の平均を表4に示した。最も資料館を訪問しているのは南部地区の生徒であった。また，学校別に見ると，南部地区の中学校で資料館訪問回数が最も多く，反対に北部地区の小学校が少なくなっている。南部地区の小中高校生はともに比較的資料館訪問回数が多いことから，都市部で周囲に資

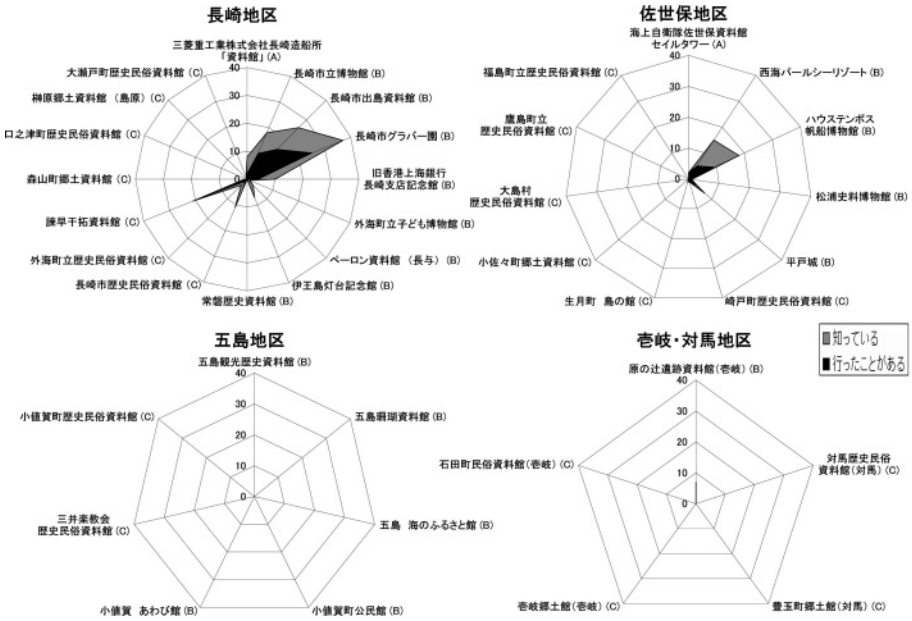


図 3　地区別資料館訪問状況（南部地区高校へのアンケート結果）
Situation of Student's Visits to Museums by Area (Results of Questionnaire to High School in Southern Area)

料館の多い大規模学校では，資料館を利用する機会も多い傾向が見られた。一方，北部地区では周りに資料館が少ないためか，他の地区と比較すると全体的に訪問回数は少なくなっていた。また高校では小中学生よりも資料館の平均訪問回数が少なくなっていた。一般的には高校生が最も訪問回数が多くなると考えられるが，興味や訪問してからの時間が経過していることでその記憶が薄れてきていることが考えられた。以上から資料館訪問の回数に影響するのは，小中高校への学年進行による差よりも資料館が近くに存在するかなどの地域差の方が大きいことが伺われる。

地区ごとの資料館の知名度と訪問回数　図 3 は南部地区高校へのアンケートから県内4地区海事資料館の知名度と訪問状況について並べたレーダーチャートである。この質問は，県内の海事資料館の知名度とともに訪問したことがあるかを，居住地区と比較したものである。図 3 より居住地区に近い，長崎市グラバー園や長崎市出島資料館など観光地としても知名度が高いところは高校生の認知度も高く，また実際に訪問した人も多い。しかし，北部地区の西海パールシーリゾートやハウステンボス帆船博物館など観光地としての知名度はあっても居住地区から遠いところでは高校生でも知っている割合は低く，訪問人数も少なくなっている。さらに五島や壱岐・対馬地区にある資料館はほとんど知られていない。

これらの傾向はその他地区の生徒に行った結果も同様であり，小，中，高校生という年齢には関係なかった。

海事資料館を訪問したきっかけ　図 4 に海事資料館と限定せずにその資料館を訪問したきっかけを示した。いずれの場合でも学校行事として訪問したとの回答が最も多く，特に島原地区や対馬地区では多くの人が学校行事で訪問している。これは，この地区には著名な資料館があり，また学校側としても積極的に資料館訪問を進めている結果と考えられる。このほか，中学校では南部地区を除いて過半数が学校行事として訪問している。

一方，北部地区の小学校，高校では学校行事の割合は他地区と比べ少なく，これは北部地区の場合，学校行事として訪問できるような著名な資料館が近くに存在しないことも要因の一つと考えられる。

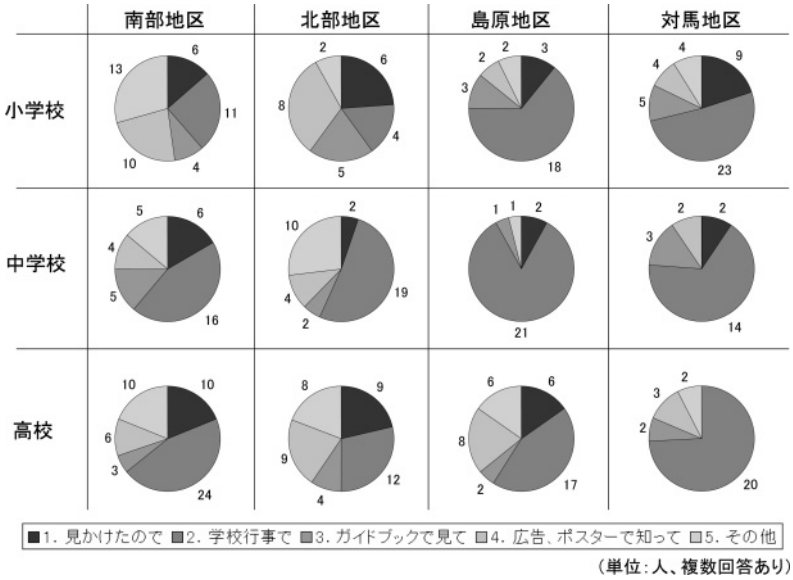


図 4　その資料館を訪問した理由
Reason for Visit to Specific Museum

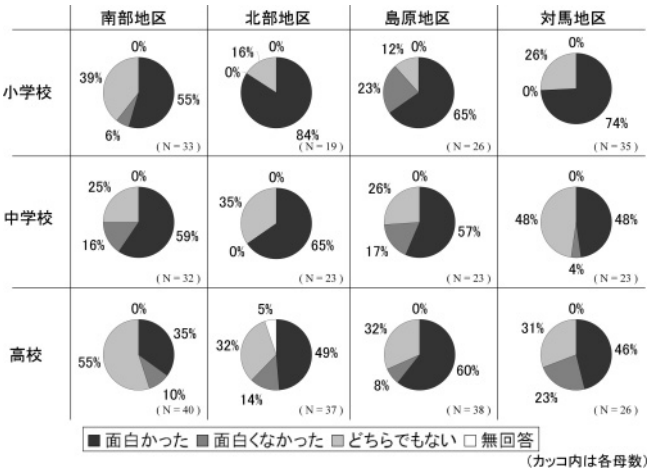


図5　訪問した資料館はおもしろかったか
Impression of Museums which Students Visited

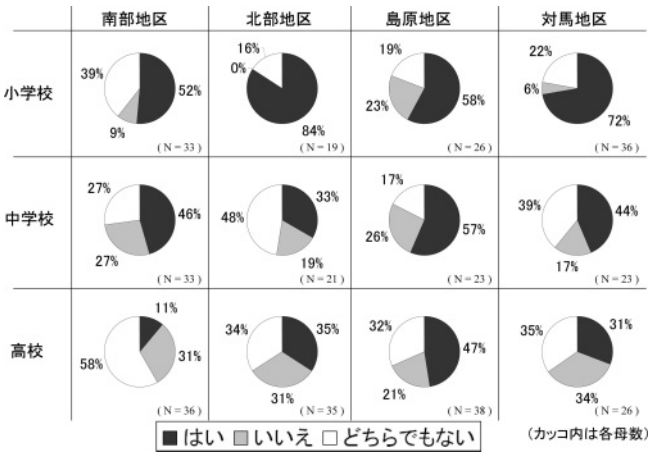


図6　再度訪問してみたいか
Willingness of Revisit

訪問した資料館はおもしろかったか　図5に海事資料館と限定せずにその資料館を訪問しておもしろかったか，という質問に対する回答を示す。これによると小，中学生ではすべての学校で「面白かった」と答えた人が多い結果となったが，高校では島原地区を除いて「面白かった」と答えた人は半数以下に留まった。北部地区の小学校は周辺に資料館が少なく，訪問回数も他の小学校の生徒と比較して少なかったが，「面白かった」という回答の割合が最も高くなっていた。

再度訪問してみたいか　図6に再度訪問してみたいか，という質問に対する回答を示す。小学生の結果では，「また行ってみたい」と思う人が，かなり多くなっているが，中学および高校生では，一度訪問した資料館に再度訪問してみたいと思う人の割合は少なくなっている。前項の質問で「面白かった」と答える人の割合に比べ，再訪問してみたいと答える人の割合が少ないことから，再訪するまでの興味が持てず、またその印象は長続きしないようである。

海事資料館でみたいもの　図7に海事資料館で見たいものについて示した結果を示す。これによると第1位に操船シミュレータ，第2位以下に模型，海図などが続き，実際に体験できるものを望む声が多かった。従って利用者側のこのような要望に答える意味で，前述したように資料館側には展示品を面白いと感じさせるような工夫が求められていると考えられる。

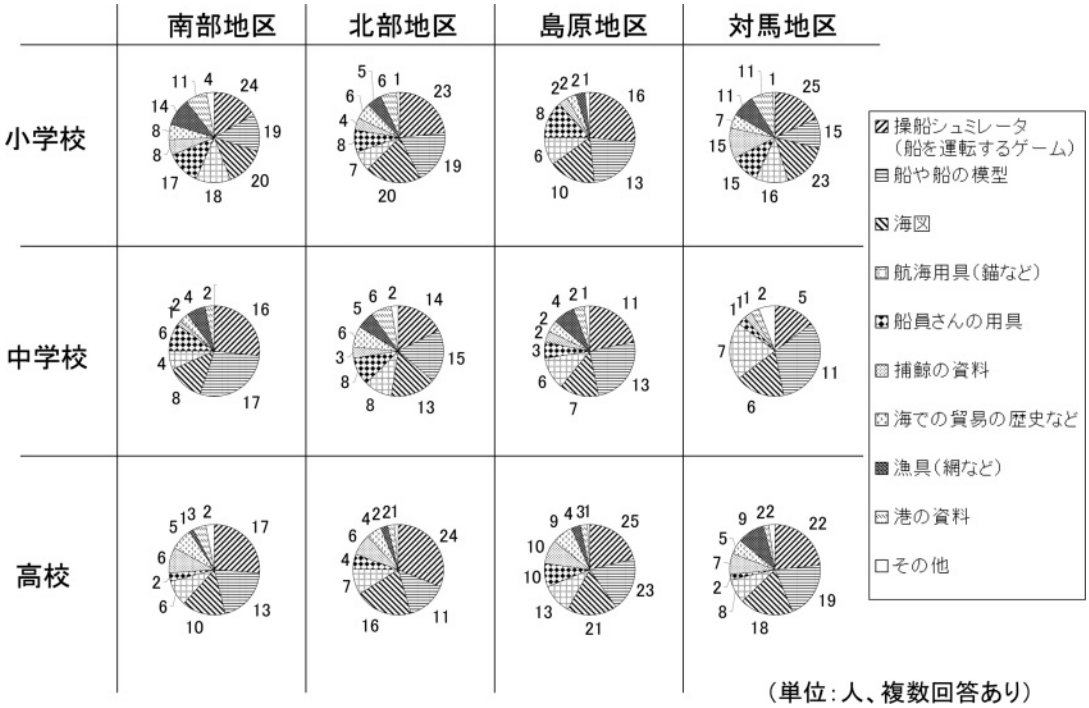


図7　海事資料館でみたいもの
Desired Articles in Maritime Museum

表 5　海事資料館へのアンケート結果
Results of Questionnaire to Maritime Museums

	船	漁具	捕鯨資料	海図	海上貿易の歴史	港関係	その他	訪問者数	展示品数	海に関する展示品数	再訪問してもらうための工夫	子供が理解できるための工夫
三菱重工㈱長崎造船所史料館	○						造船所の歴史資料	★★★	★★★	★★★★★	★	★★
出島資料館	○				○			★★★★	★★★	★★	★★	★★★★
長崎市グラバー園	○						グラバー魚譜	★★★★★	★★★	★★★★★	★★★★	★★
旧香港上海銀行長崎支店記念館	○				○	○		★★★	★★	★★★★	★★	★★
日本二十六聖人記念館	○							★★★	不明	★	★★★	★★
長崎市歴史民俗資料館		○						★	★★★★	★	★★★★	★★★★
常盤歴史資料館								★	★★	★	★	★
外海町立歴史民俗資料館	○	○						★★★	★★★★	★★★★★	★★	★★★
大瀬戸町歴史民俗資料館	○	○						★	★★★	★★★★	★	★
諫早干拓資料館	○	○						★★	★★	★★★★	★★★	★★★
森山町郷土資料館		○					パネル展示	★	★★	★★★	★★★	★★★
有明町歴史民俗資料館		○						★	★★★★	★	★★	★★
口之津町歴史民俗資料館・海の資料館	○			○		○	三井船舶と口之津、海外民芸品	★★★	★★★★★	★★★★★	★★★	★
榊原郷土資料館		○						★★	★★★	★	★★	★
海上自衛隊佐世保資料館	○						幕末から海軍終焉まで・海上自衛隊	★★★★	★★★★	★★★★★	★★★	★★★★
西海パールシーリゾート	○			○	○		バイキング船体験、体験物	★★★★★	★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★
松浦史料博物館							企画により変化する	★★★★	★★	★	★★	★
平戸城					○			★★★★	★★	★	★★	★
生月町博物館　島の館	○	○	○			○		★★★★	★★★★	★★★★★	★★★★	★★★★★
小佐々町郷土資料館	○	○						★	不明	★★★★★	★	★★
大島村ふるさと歴史資料館			○		○			★	★★	★★★	★	★★
鷹島町立歴史民俗資料館	○						絵画	★★	★★★	★	★★	★★
五島観光歴史資料館	○	○	○	○				★★	★★★★★	★★★★★	★★★	★★★★
新魚目町　海のふるさと館	○	○	○					★★	★	★★★★★	★	★★★
小値賀　あわび館		○						★	★	★★	不明	★★
小値賀町歴史民俗資料館		○	○					★	不明	★★★★★	★★★★	★★★
壱岐・原の辻遺跡資料館	○	○	○			○		★★★★	★★★★	★★★	★★★	★★★★★
対馬歴史民俗資料館	○	○						★★★	★★	★	★★	★★
豊玉町郷土館		○	○					★★	★★	★	★	★
石田町ふるさと資料館		○					航海機器など	★	★★		★	★★

	訪問者数（1日当たり）	展示品数	海に関する展示品数	再訪問してもらうための工夫（イベント、宣伝、展示品を増やす、その他の中から）	子供が理解できるための工夫（映像、体験、ゲーム、触れる、詳しい説明、その他の中から）
★★★★★	500人以上	2000点以上	40点以上	4つ以上	4つ以上
★★★★	100～499人	1000～1999点	30～39点	3つ	3つ
★★★	30～99人	300～999点	20～29点	2つ	2つ
★★	10～29人	100～299点	10～19点	1つ	1つ
★	10人未満	1～99点	1 ～9 点	特にしていない	特にしていない

表 6　これからの資料館像
Future Tasks in Each Museum

日本二十六聖人記念館	若い人をひきつけるには、学校の協力が必要になるだろう。
旧香港上海銀行 長崎支店記念館	見せるだけでなく、触れられたり、使用できるものがあればよい。展示替えも 必要と思いますが、子どもの頃見た展示品と同じものを、大人になってから 再度見たり、自分の子どもと一緒に見るのも感銘を持つと思う。
外海町立 歴史民俗資料館	地域文化の保存、研究、継承、紹介等の文化振興の拠点であるべき。
大瀬戸町 歴史民俗資料館	年に1回は収蔵庫のものと一部を展示替えすることが必要。
森山町郷土資料館	展示だけでなくその展示品などを使用し、体験ができるイベントなどの 開催が必要なのではないか。
口之津町 歴史民俗資料館・ 海の資料館	情報をインターネットで提供すること。
榊原郷土資料館	個人の資料館なので、能力、知力、経済力、施設についても限界がありますが、 来館者に対して少しでもよいから声かけ（会話）をしている。
海上自衛隊 佐世保史料館	展示資料の更新。
西海パールシー リゾート	見るだけではなく、聞いたり、触って感じたりする、ハンズオンや 実際に本物を体験できる「体験型の資料館」が理想だと思う。
生月町博物館 島の館	地域情報の収集、発信の拠点。
鷹島町立 歴史民俗資料館	これからは、学校と資料館の連携、協力がこれまで以上に 強く求められていくのではないでろうか。
小値賀町 歴史民俗資料館	体験と実習を目指したい。
対馬歴史民俗資料館	宗家古文書類の活用を図るということで、「読み方講座」や「講演会」を一般向けに そして、中高生を対象に「歴史散策講座」の開講などを予定している。
石田町ふるさと資料館	小学3年生の学習の場に利用されているが、そのほかについては 今のところ考えはない。
壱岐 原の辻遺跡資料館	地域とかかわる行事を資料館で創り、年中行事として定着させることを行う。 原の辻展示館の場合は、田植えから収穫、祭、と行っている。 体験学習として、勾玉作り、火起こし、土器作りを行っている。

海事資料館へのアンケート結果

海事資料館の現状　表５は海事資料館に対して行ったアンケートの集計結果を基にして作成した海事資料館の現状を示すものである。これは基本的な資料館情報に加えて，資料館を実地訪問してみてよかった点，海事資料の紹介や，資料館側として強調しているポイントなどを示した。また利用者が資料館訪問を計画する場合，その資料館をイメージしやすいように，年間を平均した１日当たりの訪問者数，展示品数，海に関する展示品数，再度訪問してもらうための工夫，子供が理解できるための工夫の計５項目に関して，同表下部のそれぞれのランクを星の数で示している。表に記載されている各ランクにおいて，ポイントが低い資料館であっても珍しい展示があり，また限られた予算の中で工夫や企画展を試みている場合もあることから，ランクは一概に資料館のグレードを表すものではない。この結果によると，海事民俗資料館に分類されるような資料館においては展示品数，訪問者ともに小規模のものが多いことがわかるが，中には再度訪問してもらうための工夫，子供が理解できるための工夫などに積極的な試みも見られる。ただ，海事民俗資料館に分類されるような資料館においては，まだまだ他の資料館と比較するとそれらの取組が概して少なく，また工夫を行っていても実態を知られていないところが多かった。

これからの海事資料館に求められること　表６に海事資料館としてどのような資料館像を描いているのかについて回答してもらった結果を示す。この結果から多くの資料館が，より開かれた資料館を目指し，資料を展示するだけでなく，講座を行うことや体験できる場として利用されることを目指していることがわかった。

利用者側と海事資料館側の意見比較

前述した利用者側へのアンケート結果から，利用者側は映像，ゲーム，体験，触れることのできる展示を行って欲しいという意見が多いことがわかった。

それに対して，表５で示した資料館側が実際行っている展示や工夫が利用者側に知られておらず，訪問者が少ないところも多いことがわかった。一方でさまざまな工夫のされている資料館は大いに利用されていることもあり，資料館の情報開示が利用者，資料館双方にとっても必要であると考えられる。

さらに，利用者が資料館を訪問するきっかけとして学校行事という意見がもっとも多く見られたことから，資料館の活用には学校側の協力も欠かせないものと考えられる。

まとめと展望

以上の結果をまとめると以下のようになる。

ほとんどの小中高校生は資料館を学校行事の一環として訪問している。子供たちが興味を持つのは，映像，ゲーム，体験，触れることのできる展示品などである。県内資料館の半数以上が海事民俗資料館であり，小規模で財政的にきびしい。従ってお金をかけない様々な企画や手作りパネルなどで来館者を増やす努力をしている資料館があり，こうした取組が今後の資料館活性化の参考になる。また，企画展に関しては，比較的多くの資料館で実施されていたが，情報に関する宣伝不足は来館者の増加に結びつかないため，情報の発信が重要であると考えられる。

海事資料館が資料展示等を通して今後も機能していくため，また期待される本来の海事教育施設としての役割が十分果たせるよう，各資料館資料の充実は勿論であるが，資料館側から下記事項への積極的な活動が必要と考えられる。

１）イベントの企画。
２）展示するだけでなく興味を引く展示（パネルなど）の工夫。
３）映像，ゲームや体験ができる。また動く模型などの工夫。
４）知名度を高める努力。
５）学校側の協力も促す。

また，本調査結果を踏まえ，海事文化普及を更にはかる意味で本調査研究を通して知り得た各資料館の展示品の概要紹介について，長崎大学版の資料館ガイド作成とインターネットを利用した情報発信を計画した。すなわち，資料館相互の情報交換，利用者への便宜をはかるために県内各資料館のイベント企画や入館者増員への各種アイディアの紹介，各地資料館の特徴を示す展示品の概要紹介などである。

以上のコンセプトのもとに今回新たに作成した資料館ガイドの一部を付録として末尾に示す。資料館ガイドは今回調査・訪問した合計30施設についてまとめたものであるが，全体については今後資料館側の了解をとった上，ホームページにて情報発信していきたいと考えている。そのアドレスは，

http://www.fish.nagasaki-u.ac.jp/FISH/KYOUKAN/takayama/index-j.htm

である。

謝　　辞

本研究を行うにあたり，2003年夏〜冬にかけて2回のアンケートにご協力いただいた県内12校の小・中・高等学校の校長および教頭先生をはじめ担当の教職員並びに児童・生徒の各位に厚くお礼申し上げます。また，同様のアンケートおよび訪問調査にご協力いただいた県内30の各資料館館長並びに関係者各位に併せて御礼申し上げます。

参 考 文 献

１）庄司邦昭：ヨーロッパ船の博物館ガイド，大空社，東京，1998,1-222.
２）庄司邦昭：ショージ先生の船の博物館めぐり国内編，春風社，横浜，2000，1-204

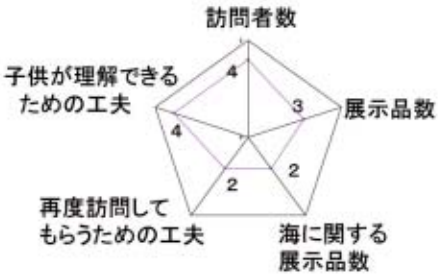
<付録：博物館ガイドブックの一例>
<Appendix: A Sample of Museum Brochure>

出島資料館

〒850-0862 長崎市出島6-3
TEL 095-821-7200（出島史跡案内所 FAXも同じ

開館年	1877年
開館時間	9:00-17:00
休館日	無休
入館料	300円（一般） 150円（小・中学生）
団体（30名以上）	240円 90円

資料館データ



訪問者数	展示品数	海に関する展示品数
1：10人未満	1：1～99点	1：1～9点
2：10～29人	2：100～299点	2：10～19点
3：30～99人	3：300～999点	3：20～29点
4：100～500人	4：1000～1999点	4：30～39点
5：500人以上	5：2000点以上	5：40点以上

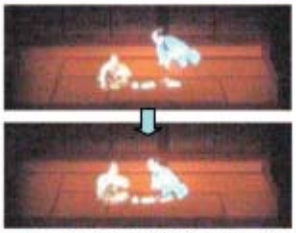
再度訪問してもらうための工夫（イベント、宣伝、展示品を増やす、その他の中から）	子供が理解できるための工夫（映像、体験、ゲーム、触れる、詳しい説明、その他の中から）
1：特にしていない	1：特にしていない
2：1つ	2：1つ
3：2つ	3：2つ
4：3つ	4：3つ
5：4つ以上	5：4つ以上

COMMENT

出島で暮らしていた当時のポルトガル人やオランダ人の生活が分かりやすく説明されている。当時の生活が再現された模型や展示物が多く、子供にも分かりやすいような展示がされている。映像や動く模型、情報検索BOXなどが多く、一般の人が楽しみながら理解することができる。また、ボランティアガイドが常駐しており、詳しい説明が聞ける。また、出島敷地内の案内マップもあり分かりやすい。イベント（カピタン展など）や、ランタンフェスティバル中の夜間開館（7～10月の間も19時まで）などの工夫もされている。
内装が新しく、展示がとてもきれいな資料館であり、300円で本館、分館、二番蔵共に見学できる。

館内ビデオ画像の一部

△ 情報検索BOX
アニメーションで出島の資料を検索することができる。



△ コミカルに当時の出島の生活を再現しているCG。

大きなシアターで再現されたビデオを観ることができる。▷

出島資料館外観